

市民の台所 市場へようこそ!

私たちの暮らしと切っても切れない存在でありながら、直接目にする機会の少ない宮崎市中央卸売市場。ここでは、市場で働く皆さんや関連店舗に注目して、その姿に迫ります!

【問】市場課 ☎ 29-1501 FAX 29-1505

たくさんの方が深夜から始動!

宮崎市中央卸売市場は、昭和52年に営業を開始。現在まで約40年にわたり市民の皆さんへはもちろんのこと、東京や大阪、遠くは北海道にまで、キュウリやピーマンなどの特産野菜やカツオなどの水産物、花きなどを届け続けています。市場に入れるのは、許可を受けた人だけ。中ではどんなことが行われているのか、のぞいてみましょう。

CHECK!
スペシャルムービーで市場の様子を見てみよう!



競りの流れ

さあいくよ!!
さあいくよ!!



たくさんの買い手が、競りが始まる前に下見をして品物を見極めます。
鐘を合図に競り開始。ペタランの競り人は掛け声に独特のリズムが!
競り落とされた品物には、買い手を示す札が置かれていきます。



取引はしっかり記録! 安全・安心を守ります。

品物の値段を決める競り売りでは、誰が何をいくらで買ったのかが分かるよう、競り人の掛け声がICレコーダーですべて録音されています。また、監視カメラと監視スタッフが常に市場内をチェック。取引の監督や指導を行い、安心して取引ができるように努めています。



公正・公平な取引を見守り、皆さんの手元に安全・安心な品物が届くよう、がんばっています。

市場課 嘱託員 日高 誠一

市内の店舗や県外に届けられます!



たくさん並んでいた魚が次々と運ばれていく中、市場内の別の場所では朝7時から青果の競りがスタート。



朝5時になると、水産物の競り人が手持ちの鐘を勢いよく振り鳴らし、競りがスタート! 手前ではアジが、奥ではサバが、というように、競りは同時に複数の場所で行われます。ガッツポーズのように腕を振り上げたり、「さあいくよ!」と大きな声を上げたたりと、競りの仕方は競り人によって実にさまざま。青島など日向灘でとれた新鮮な魚は人気が高く、あつという間に競り落ちていきます。



もう既に明かりが!



カンカン! カンカーン!



青島どれの魚もたくさん!



買ってよ 買ってよ!



経験年数30年! 競り人 手束 耕作さん



いい花ですよー!



タブレット端末で入札!



橋田 菜那美さんに聞きました!

今、市場で働く唯一の女性競り人!

競り人として市場で競りを行う橋田さん。仕事の内容や、やりがいについて聞きました。

いつから競り人として仕事をしていますか?

卸売会社に7年前に就職し、競り人になって、4年目になります。入社して2年が経ったら競り人の試験を受けることになっていたので、卸売市場法など競り人に必要な法律や知識を勉強し、資格を取得しました。

もともとこの仕事を志望していたのですか?

いえ、初めは生産者志望だったのですが、卸売会社に入社し、競り人として仕事をすることで、売り手として仕事をすると面白さに目覚めました。競りの中で高値が付くと、生産者の思いに込められた気がして、とてもうれしいです。



早朝からの仕事で大変ではないですか?

毎朝4時過ぎには市場に出ているのですが、実は早起きが苦手です。社内でも出社は遅い方です。笑。競りが終わっても伝票の整理や生産者さんへの連絡などがあり、家に帰るのは夕方。できるだけ早く寝るようにはしていますが、早い時間だとやっぱりなかなか眠れないのが難点です。



これからの目標を教えてください。

品物の目利きの力を付けて、生産者や買い手の皆さんにもっと喜んでいただけるようになりたいです!

